

林…この度は全日本病院協会（全日病）の新任会長に就任され、心からお祝い申し上げます。私は神野先生とは故郷（石川県能登地方）も同じで長い付き合いなので、大地震にも見舞われ非常に厳しい能登地方で長く民間病院を経営され、そしてこのたび日本の民間病院を代表する協会の会長になられるというのは、これは大変なことだと思います。

神野…ありがとうございます。会長は人を押しのけてやるというよりは、ある種のタイミングでこうなったのだと思っています。多くの病院は地方にありますので、私はこれから地方目線でいろいろなことに取り組みたいと思います。

林…周知のように医療はいま大変です。民間病院の6割以上、公立病院の8割以上が赤字でしよ。こういう厳しい中で会長としてどういう風によつていかれるのか、改めて率直なところをお聞きしたいと思います。

神野…世の中にはいくつも病院団体があります。大きなところでは

日本病院会（日病）があつて、医療法人協会（医法協）があつて、日本精神科病院協会（日精協）があつて、私が会長になる全日病があります。その違いは明確にしなければいけません。私が絶対言えるのは、全日病は民間病院など、借金に責任を持っている人たちが会員という集まりです。そういう

林…最近いろいろ考えてみますと、どうも行政主導型の分野は軒並み厳しい状況に置かれていると思います。そういう中で神野先生にお聞きしたいのは、行政とどういうスタンスでこれからやつていかれるのかです。

神野…これからは行政に言わなきゃいけないことはもちろん言いますし、もう一つの視点として「我々はどうやってこれから日本の医療をやつていくんだ」「俺たちはこれをやるんだ」というような感覚が必要だと思っています。

林…先生がおっしゃるように、行

医療に対して主体的に行動する姿勢が不可欠

意味では公立病院や国立病院はあまり入っていません。我々が背負う責任は重いですし、その責任があるからいいかげんなことはできません。病院継続のためのレスポンスビリティを持ったグループであるというのは、他の病院団体との大きな違いだと思っています。

政に対して物を申す会長としてしつかりやつてもらふと同時に、物を申す以上は自分たちが主体的に何をやっていくのが問われます。だから僕が非常に神野先生に期待しているのは、能登地方という厳しい環境の中でやつてこられたという経験と実績ですね。これが、非常に説得力があると思っています。

神野…私の置かれた環境というのは、行政に頼るというよりは、自分が主体でやるしかない部分が多かったのだと思います。

林…やはり、そういうふうに民間

主導型でどんどんやつていく一つの流れを行政がしつかり受け止めて、しつかりバックアップしていく流れを作りたいですね。

神野…全日病ではこれまで、私も少し関係していましたが、私も「病院のあり方委員会」というのがあり、「病院のあり方に関する報告書」という提言書を出しています。10年ほど前の報告書は結構提言型になっていました。それが、だんだん行政が先に「2025年までにどうする」という計画を作つて、それに「今度どう対応するか」というやり方になってしましました。それで、私は、2040年というのが一つの次の節目ですから、そこに向けてどうあるべきかということをやつていくべきかとして、今の25年に何をすべきかということをやつていくべきかという形にしないといけないかなと思っています。

林…私はこの46年間、ひたすら病院経営の分野に取り組んできた訳ですが、従来の流れをどういう風に変えていけるのでしょうか。

公益社団法人 全日本病院協会9代目会長に神野正博氏

特別インタビュー

「地域医療を守る責任と行動」を強調

公益社団法人全日本病院協会（全日病）は6月28日、東京都内で臨時総会を開き、9代目会長に神野正博副会長が就任した。石川県能登地方で長く病院経営を担っており、全日病会長として大きな役割が期待されている。そこで、株式会社日本医療企画の林諄代表取締役が特別インタビュー。神野会長は地域医療を守る責任と行動を強調した。



林 諄

株式会社日本医療企画
代表取締役



神野正博

公益社団法人全日本病院協会
9代目会長